

## 【正徳6年・1716】6月22日、年号を享保に改元

- 1/ 2 盛岡城大書院で花巻郡代御礼、花巻御給人2人ずつ御礼
- 1/ 5 桜庭兵部、病気を苦に自害
- 1/ 6 花巻郡代松田弥兵衛、大書院で藩主に御礼、花巻御給人(50石以上)2人ずつ御礼
- 1/ 9 田頭村東慈寺黙音と大里村大徳寺順奇の2名行方不明
- 1/13・鬼柳代官交代、畑中久右衛門→吉田次郎左衛門
- ・大迫代官交代、大守茂太夫→滝沢三郎右衛門
  - ・黒沢尻御蔵奉行交代、宮治兵衛→吉岡半之丞
  - ・花巻新御蔵奉行交代、田鍬源右衛門→松田与四右衛門
  - ・大工奉行交代、柴内作右衛門→駒木庄左衛門
  - ・黒沢尻物留番に織笠庄介、楓五右衛門、儀俄権左衛門の3名
  - ・鳥討、花巻城廻りは大守金之丞、和賀は中野半七、石鳥谷は中野新六
- 1/15・月次御礼に、花巻御給人宮野与左衛門子の豊四郎初目見え
- ・花巻郡代松田弥兵衛、美濃魚1本献上
- 1/17 元禄金は2年後の12月まで通用期限
- 1/25 花巻御与力半揚嘉左衛門の伊勢参宮90日間の休暇認可(郡代松田弥兵衛へ書状)
- 1/28 花巻御与力名須川吉左衛門倅、吉十郎の伊勢参宮90日間の休暇認可(郡代へ書状)
- 2/ 6・花巻の山川春木奉行異動について、郡代から目付へ報告。3人から各2人の6人へ
- ・山奉行に猪去内蔵丞(留任)と平賀儀兵衛。川奉行に菊池茂兵衛(留任)と工藤新五兵衛、春木奉行に金田一八右衛門(留任)と柏葉恒右衛門
- 2/10 中島三右衛門休暇で花巻の親類に寄留
- 2/13 下小路屋敷観音堂と毘沙門堂建立竣工、永福寺へ地祭執行に15貫文余り支給
- 2/14・家督相続、花巻御給人岩間助右衛門(69歳老衰)→倅彦助(33歳)、
- ・花巻城屋根葺き替え、二郡内百姓の願い出により当初の萱葺きから桙葺きに変更し、2月と秋の2回で100石に付き金1歩の割合で経費納入・田頭利兵衛、花巻の老母介抱のため休暇
- 2/19 花巻の田瀬村と谷内村で猪と狼の被害あり、鉄砲で駆除を認可
- 閏2/11・二子万丁目代官交代、中西権左衛門→四戸武兵衛
- ・御船奉行交代、富田柵右衛→三浦平太左衛門
- 閏2/29 家督相続、花巻御与力簡作右衛門(病身69歳)→子伝十郎
- 3/ 5・花巻御給人で境古人頭の高屋権之丞へ、本田の替え地17石と米10駄支給し20駄の拝借は却下
- ・簡作右衛門の給人昇格は却下、50石以上の給人不足から給人昇格を求めた郡代の申請却下。
  - ・花巻御給人佐藤十内の不行跡の再吟味(4月23日関連)
- 3/14・多田仁右衛門(老衰で病氣)の養子に、花巻の平沢八十右衛門弟の三十郎とする願い、認可猶予
- ・藩主の往来に際し花巻郡代が境目に詰める場合、人足4人と伝馬1匹、乗馬1匹(口付け小者)の借用申請は先例により却下。借馬は190石以上の場合認可。松田弥兵衛へ申し渡す
- 3/15 花巻御給人町屋七郎右衛門、継ぎ目お礼
- 3/18・鬼柳代官交代、吉田二郎左衛門→設楽六郎左衛門
- ・殿様発駕に吉助様花巻まで見送り、田中久太夫郡山までお供
- 3/20・江戸廻米積み下りのひらた水主(かこ)黒沢尻清五郎、戻り舟の折大風で帆に打たれ死去、一関より死骸の照会。花巻ひらた奉行より礼状・加判役の桜庭与十郎、十郎右衛門と改名
- 3/23・殿様と吉助様、花巻で一泊。(吉助様は鬼柳より花巻に戻り24日盛岡着)
- ・盛岡城外下曲輪火事の報告、幕府へ3月6日届け
- 3/29 花巻で大火、3月28日午中刻豊沢町武兵衛借家の助作居所から出火し、豊沢町両側71軒、川口町40軒、中小路給人屋敷20軒(照井源右衛門、宮杜清右衛門、伊藤庄左衛門、鈴木千太郎、梅木佐五右衛門、鈴木与九郎、小屋敷伝蔵、金田一八右衛門、御与力小田島勘之丞、工藤新五兵衛、石川円兵衛、中島権四郎、伊藤庄五郎、小野寺長助、三田文右衛門、高橋多右衛門)、町侍家数111軒焼失、城は別条なし、城代松田弥兵衛飛札で報告。
- 4/ 2 菊池権七、台へ湯治暇二廻
- 4/ 3 岩間勘右衛門、台へ湯治暇
- 4/ 4 久慈善右衛門、台へ湯治暇

### 【正徳6年・1716】6月22日、年号を享保に改元

- 4/ 6 御料理鈴木権右衛門、花巻の老母看病に7日休暇
- 4/ 7 早池峰山御堂普請奉行に長沢武左衛門・鈴木久右衛門、台へ湯治暇二廻
- 4/ 9 類焼した花巻御給人鈴木与九郎、小屋敷伝蔵、小野寺長介、伊藤庄五郎へ、日参の奉公により各自金2歩支給
- 4/11・四日市弥十郎屋敷から10日未中刻に出火、類焼43軒、禿家7軒、申上刻鎮火、郡代松田弥兵衛より飛脚・殿様、4日江戸着
- 4/12・花巻二度の火事で城下落ち着かず、城役人と御給人昼夜見回り。非番の郡代中原甚兵衛花巻へ。  
・日詰代官所升沢村百姓、砂金入りの鉢掘り出し
- 4/16 花巻御給人高橋瀬兵衛へ、永代証文を再交付
- 4/21 花巻御給人長沼九一郎、江戸から下着（江戸発10日）
- 4/22 花巻御給人佐藤十左衛門、不行跡で入牢、打ち首26日花巻にて
- 4/23 南部家、幕府鉄砲新蔵火の番を拝命
- 5/ 2 金矢与次右衛門、台へ湯治暇(16日間)・夜中の提灯使用停止
- 5/ 4 端午の祝いに、花巻郡代より湯蕨5連と干鱈3枚飛脚で上がる
- 5/ 7 将軍家継4月30日病死、紀伊大納言襲封（翌8日城下の鳴り物停止）
- 5/ 9 福村浅右衛門、台へ湯治暇三廻
- 5/11 吉助様名乗り（信駕）と据え判、江戸から吉様へ送られる
- 6/ 1 献上のカタクリ粉、江戸から催促
- 6/ 3 勝又彦右衛門、台へ湯治暇二廻
- 6/12 石沢弥右衛門、老体と不勝手のため藤根村に引っ越し、番代は倅幸右衛門
- 6/14 江戸下りの八戸藩主、盛岡東御仮屋着（江戸2日発）
- 6/16 当秋代の江戸登り名簿（花巻御給人の名あり） ※7月18日諸士江戸へ出発
- 7/ 4 花巻の辻ヶ鼻留で初鮭、郡代中原甚兵衛から足軽付で届く(12日二番鮭)
- 7/ 7 鳥討、花巻城廻りへ大守金之丞、和賀通へ佐藤弥平次、石鳥谷へ中野半七
- 7/ 9 花巻辻相撲と踊りなど停止の触れ
- 7/13・花巻新山小留で三番鮭取り上げ・境目御用で花輪郡代の川守田弥五兵衛、解任
- 7/14 享保の改元通知
- 7/20 安俣通代官交代、立花儀右衛門→関弥九郎
- 7/25 花巻通の当作毛見分に、御元締め取次の女鹿又右衛門を派遣
- 8/ 3 菊池三郎兵衛、花巻の老母対面に10日間休暇
- 8/19 川欠足し高、中村五右衛門ら5名へ証文交付
- 8/26・八戸藩主通信、八戸で病死・幕府へ若黄鷹1居献上
- 9/10 所々蔵目付の任命
- 9/17 跡式、花巻御与力五日市与右衛門→子伝右衛門(15石) 注-享保2年8月28日藩主にお目見え
- 9/24 大迫通達曾部村長根で死体発見
- 9/28 黒沢尻物留番に生方次郎兵衛
- 10/11 献上の鱈江戸送りに、花巻足軽一人付き添い
- 11/ 5 公儀買い馬12疋、花巻着
- 11/30 島立甫、花巻の老母看病で5日間の休暇
- 12/19 花巻郡交代、中原甚兵衛(病氣)→岩間弥五兵衛

### 【享保2年・1717】

- 1/11・八幡寺林代官江刺家彦太夫→鳥谷部嘉左衛門・大迫代官滝沢三郎右衛門→長嶺茂兵衛  
・花巻本御蔵奉行交代、工藤武左衛門→織笠治五右衛門  
・鳥討、花巻城廻りに中野半七、和賀に中野新六、石鳥谷に大守金之丞
- 2/ 2・狩野永碩、扶持方で江戸御用人支配  
・江戸御末鍵番に、大関三郎左衛門（もと花巻御取次）
- 2/17・花巻町奉行交代、鴨沢忠右衛門または中島権四郎→伊藤二郎右衛門（郡代の目論み認可）  
・花巻御取次交代、大関三郎左衛門→長沼九一郎（郡代の目論み認可）

## 【享保2年・1717】

- 2/22・跡式、照井源右衛門→子の百松(21石余)、大湯門助→養子文左衛門(実は伊藤一郎兵衛弟、3駄1人扶持)、中島源内→子の伝八(5駄2人扶持)
- ・工藤定右衛門、養子の小四郎を離縁し、兄の宮杜清右衛門引き取り
- 4/14 花巻一日市町裏町で8日火事発生し、両御仮屋焼失。火元の坂の下長四郎へ20日間の閉門(5月10日花巻の火事を幕府に届け出)
- 5/4 下向の藩主、花巻出発し盛岡着(4月22日江戸発)
- 5/13 改名、長沼九一郎→同治五右衛門、三田弥太夫→同軍右衛門、佐藤平蔵→同治兵衛、柏葉恒右衛門→同甚兵衛
- 5/14 折居了探、岩崎村の父見舞いで10日間の休暇
- 5/15 家老一人は夜8時、一人は七ツ時まで詰める
- 5/15・御写し物御用に、山屋宇八郎、中村忠右衛門、宮守洞庵、大巻喜六、足沢嘉八郎
- 5/19 聖寿寺屋根葺き替え奉行に、一戸儀兵衛任命
- 5/22 小川太郎左衛門、病気で花巻本御蔵奉行を辞任(同24日後任に中野金右衛門就任)
- 6/5 田頭利兵衛、花巻へ洗濯のため休暇20日間
- 6/15 大工奉行交代、江元八左衛門→帷子平内
- 6/16 花巻郡交代、松田弥兵衛(病気)→高野庄兵衛(当分の間、岩間弥五兵衛と相談)
- 6/17・病気の伊藤庄左衛門養子に、上野小兵衛弟の左内として番代。
- ・櫛引与助、諸物屋取次精勤、5ケ年の江戸詰めで御借金御買い懸け差し引き念入りにより、地方30石へ切り米10駄加える(28日月次御礼で藩主にお目見え)。
  - ・銅山支配所物書渡部文四郎、精勤により花輪御給人に昇格(銅山奉行松川藤四郎ら申請による)
  - ・花巻郡代高野庄兵衛、支配組も当分支配。
- 6/18 松前藩主へ、鮎鮪1桶とカタクリ粉1箱、暑気見舞に献上
- 6/22 御舟大工小頭の藤次郎へ勤務評価、4駄3人扶持(ひらた奉行三浦平太夫へ申し渡す)
- 7/4 宮杜玄庵、台へ湯治二廻(14日間)
- 7/7 鳥討、花巻に中野半七、和賀に大森金之丞、石鳥谷に高杉甚右衛門
- 7/9 櫛引与助、花巻へ往来で休暇8日間
- 7/19 巡見使、南部領入り(8月22日仙台領へ)
- 7/22 花巻の立花留で初鮭かの1尺、江戸送り(28日二番めす1尺、29日三番めす1尺)
- 7/25・跡式、花巻御給人宮野与左衛門→同豊四郎(50石)、小川太郎左衛門→同左太郎(8月28日月次御礼)
- 7/28 江戸上屋敷、幸橋御門内に6013坪余り拝領
- 8/7 花巻郡代岩間弥五兵衛、鮎1本持参し森岡に戻る
- 8/12 高野庄兵衛、花巻郡代に就任(当分から直々となる)
- 8/20 和賀通鳥討の中野半七、菱喰1羽討ち上げ
- 8/23 台風で、江戸藩邸破損(24日続報)
- 8/28 献上鳥討場見回りに役人派遣、二子・万丁目へ石井三次郎と荒木田平介、高木・安俵へ横浜清六と工藤源兵衛、黒沢尻・鬼柳へ金矢甚兵衛と刈屋五郎兵衛、寺林・八幡へ佐々木甚内と江釣子半六(各1ヶ所御歩行2人付き)
- 9/5 山田太右衛門、台へ湯治休暇二廻り
- 9/6・泉山藤七、台へ湯治休暇二廻り・照井伝内、花巻の老母見まいに10日間の休暇
- 9/8 黒沢尻蔵目付に島田弥平、花巻両蔵目付に本堂友右衛門と宮下多右衛門
- 9/26 安俵村と山田村御除高、御蔵奉行に江原嘉兵衛(役料6駄)
- 9/27 瀬川甚平、花巻の老母看病に10日間の休暇
- 10/7 改名、花巻鳥見瀬川伊兵衛→儀左衛門
- 10/13 和賀で討ち上げの白鳥、幕府へ献上
- 10/18 七戸勘之丞弟の次郎八、伊勢詣でから9月4日帰国(昨年8月21日花巻の松川藤四郎宅をへて参宮)
- 10/25 花巻医師の太田道専と築田通益へ、各3人扶持支給(11月15日月次御礼で藩主にお目見え)
- 11/7 黒沢尻ひらた奉行交代、奥寺孫太夫→藤根伝兵衛(郡代へ通知)
- 11/19 黒沢尻物留番交代、小菅次郎へえ→墓目源蔵
- 11/22 藩主黒印変更

## 【享保2年・1717】

- 12/ 5 改名、中島伝内→同源内  
12/24 花巻城二の丸破損小屋火事、鎮火(郡代高野庄兵衛訴え)  
12/25 跡式、岡一郎右衛門→養子の百松(3駄2人扶持、百松は佐藤友右衛門三男)、中野七郎右衛門→同八郎兵衛(5駄2人扶持、翌3年1月23日藩主に目見え)  
12/26・花巻御給人太田半兵衛、福岡忠蔵養子の浅右衛門を引き取り  
・家督、花巻御給人堀内甚九郎(眼病)→子の嘉内(翌3年1月23日藩主に目見え)  
・花巻御給人平沢仁右衛門(老衰で病気)養子に、実弟の十三郎  
・花巻御物書三田文右衛門へ、郡代の申請で4駄加増、4駄2人扶持(四季施は取上げ)  
・花巻御物書中島清八へ、郡代の申請で2人扶持の支給

## 【享保3年・1718】 4月18日～24日、4月29日、5月2日～6月末の記事、欠落

- 1/ 2 花巻郡代岩間弥五兵衛、盛岡城大書院で目見え、50石以上の花巻御給人も目見え  
1/ 4 鳥討の佐藤弥平次へ、無身帯で勤務ぶりをほめられ、米3駄支給  
1/ 6 花巻郡代高野庄兵衛、盛岡城大書院で目見え。花巻御給人も目見え  
1/12・二子万丁目代官交代、四戸武兵衛→黒沢小弥太  
・大迫代官交代、岩間左市右衛門→久慈弥次右衛門  
・大迫蔵奉行交代、松岡市之丞→辻久左衛門  
・八幡寺林代官交代、佐藤友右衛門→平賀儀兵衛(郡代へ通知)  
・鬼柳黒沢尻代官交代、太田半七→小山田与次平(郡代へ通知)  
・黒沢尻物留番に生方次郎兵衛と神尾孫太郎、設楽宇太夫  
・安俵高木通代官交代、小山代又右衛門→神山儀右衛門  
・鳥討、花巻へ中野半七、和賀へ佐藤弥平次、石鳥谷へ大森金之丞  
1/15 公儀へ提出する岩鷲山絵図の作成、岡田清左衛門と小納戸の森休印へ指示  
1/18・中島三右衛門、台へ湯治休暇二廻り ・折居了探、花巻で親看病のため10日間の休暇  
1/23 三田文右衛門と中島清八、藩主に目見え  
1/24 金矢又三郎、台で湯治休暇(三廻り)  
1/26・跡式、花巻御給人大里庄右衛門→孫の金太夫(10駄2人扶持)、松岡倉右衛門→子の寅松(60石)  
・花巻信楽寺後住に法明院(50石)、注-3月16日法明院先住直弟子の樹生後任。  
2/10・鹿角の折壁番人、又重兵左衛門依願免職し、後任は三戸御給人で交互に勤める  
・大工小頭相続、与一郎(病気)→伴与十郎(大工棟梁運介組)  
2/11 検地役人に石川円兵衛ら任命  
2/18 花巻破損奉行の上田兵内、50日間の閉門処分(4月13日処分解除)、破損小屋番与右衛門は牢入り。  
2/23 長坂三右衛門、当年は休養し花巻の長坂三太夫家に引っ越し、台で湯治  
2/25 大迫の外川目で22日火事  
2/26 八戸藩の江戸台所新米の内1万俵(4斗5升入り)は、郡山、花巻、黒沢尻の3ヶ所から出すこととし、川通し証文  
2/27・公儀より巢鷹献上無用の通知 ・江戸上屋敷の火の見櫓建て替え  
2/29 花巻御蔵奉行織笠治五右衛門病気、看病に息子八郎兵衛10日間の休暇  
2/30 高野庄兵衛、台で湯治休暇(二廻り)  
3/ 5・花巻本御蔵奉行交代、織笠治五右衛門→築田平内  
・花巻郡代岩間弥五兵衛、美濃魚2尾持参し盛岡に戻る  
3/15 盛岡城大書院で目見え、花巻信楽寺隠居弟子の宜円  
3/16・鬼柳通手判、家老判形から目付判形に変更(浪人が本国へ帰国の場合)  
・花巻御給人神山儀右衛門婿養子に、鹿討武蔵伯父の宇内  
・花巻本御蔵奉行交代、築田平内(病気)→四戸十兵衛  
3/18・花巻一日市町御飯屋守、孫左衛門と多兵衛へ、2人扶持支給(町奉行伊藤一郎右衛門と太田半兵衛申請→盛岡から郡代へ通知、支給前は商売せず無給であった)  
3/18・折居嘉兵衛孫の円之助10歳、花巻支配となる  
3/19 参勤の藩主、花巻一泊(江戸着4月3日)

**【享保3年・1718】 4月18日～24日、4月29日、5月2日～6月末の記事、欠落**

- 4/ 8 花巻の二子村で黒鶴1羽の死骸発見  
4/15 野田通で野火、7日から10日まで、在家37軒焼失、塩カマド焼亡  
4/27 江戸藩邸に老中來訪のため普請用意、5月15日まで(5月25日に決定)  
7/ 1・松前藩主へカタクリ粉(5升入り)1箱と鶉50羽入り1箱、書中見舞いとして贈る  
・折居了探、花巻の親看病で5日間の休暇(9月20日にも)  
7/ 3 せり駒役人交代、西島善兵衛→煤孫佐五右衛門(遠野・大迫・郡山)  
7/ 6 和賀川除きの大奉行白石与六、下奉行長沢武兵衛、花巻へ派遣。勤務中花巻勤めとなる(13日下奉行西館与五左衛門に交代、19日役職手当支給)  
7/ 7 鳥討、花巻城廻りに大守金之丞、和賀通に中野新六、石鳥谷に佐藤弥平次  
7/20・松川条右衛門、甥の孫三郎番代を免除、知行新田支給は不可(郡代へ通知)  
・八戸若狭知行の鱒沢村百姓、仙台領岩谷堂町の五十集(いさば)持ち帰る折に遭難し、人首(ひとかべ)で荷物押収される  
7/26・花巻新御蔵奉行交代、松田由右衛門(病氣)→一方井武兵衛  
・田鍍次郎太夫、尾崎と早池峰参詣に10日間の休暇  
7/27 火葬場の変更、神子田→築川新山館  
7/29 花輪郡代横浜金十郎から、毛馬内と花輪境目の見回り報告届く  
8/ 8 花巻立花留で初鮭かの1尺捕獲  
8/29 黒沢尻物留番人交代、設楽宇太夫→斐綿忠兵衛  
9/11 田鍍庄之助、台で湯治休暇(三廻り)  
9/12 石鳥谷鳥討の佐藤弥平次、菱喰2羽討ち取り、内蔵は塩漬けで江戸へ送る  
9/13 櫛引与助、花巻老母看病に休暇(閏10月13日、11月18日も休暇)  
9/14 松前志摩守参勤に20日出発  
9/22 江釣子小五郎、松林寺村の実母病氣見舞いで10日間の休暇  
9/23 太田友平、台に湯治休暇  
9/27 花巻元蔵目付に伊藤太郎左衛門、同新蔵目付に野辺地仁左衛門、黒沢尻蔵目付に宮田瀬兵衛を各派遣。  
10/12 美濃部作右衛門、台で湯治休暇(二廻り)  
10/17 八戸藩の江戸廻米に郡山、花巻、黒沢尻の3ヶ所で7000無償で俵を供出。川通しは17,000俵  
10/23 山口十郎兵衛、台で湯治休暇(二廻り)  
10/26 津軽領鳶ヶ沢で、馬門村(まかど)百姓干し草刈、見分に役人派遣  
閏10/22 宗門改め、稗貫郡26,492人、和賀郡34,168人、花巻町4,974人  
11/11 石沢幸右衛門、花巻の実父看病に10日間休暇  
11/24 切支丹類族志望届け、花巻で2件、川村九郎右衛門(90歳)と女かつこ(41歳)  
12/11・長嶺藤助養子に、花巻御給人中島権四郎次男の市平  
・花巻御給人中館治左衛門嫡子に次男の清兵衛  
・長坂三右衛門、病氣療養により盛岡支配から花巻支配となる  
・家督、花巻御給人折居嘉兵衛→孫の忠兵衛、御境古人役  
・跡式、花巻御給人佐藤十左衛門→子の八之丞(20石余)、岩間彦助→子の五平次(16石余)  
12/19 江戸留守居勤番、御末御鍵番に神山幸右衛門  
12/20 長嶺藤助養子の平八、花巻の実母看病で20日間の休暇  
12/26 花巻郡代岩間弥五兵衛と高野庄兵衛、御歳暮に鮭披きと干し薇(ぜんまい)、串柿を江戸へ送る

**【享保4年・1719】 藩主利幹在府、この年より7カ年の儉約始まる**

- 1/13・黒沢尻物留交代、生方次郎兵衛・神尾孫太郎・斐綿忠兵衛→赤沢庄左衛門・上田亦一郎・富田文太郎  
1/13・安俵高木代官交代、関弥九郎→佐久間民右衛門、神山儀右衛門→中野金右衛門  
・黒沢尻蔵奉行交代、斗ヶ沢長三郎→石川久七

【享保4年・1719】 藩主利幹在府、この年より7カ年の儉約始まる

- 1/13 ・安俵御除高御蔵奉行交代、江原嘉兵衛→清水善兵衛
- ・花巻本蔵奉行交代、中野金右衛門→神山儀右衛門
  - ・黒沢尻御蔵奉行交代、藤根伝兵衛→奥寺孫太夫
  - ・鳥討、花巻は中野半七、和賀は佐藤弥平治、石鳥谷は高杉甚右衛門
  - ・田屋住居及び陪臣の侍町住居、禁止
- 1/22 ・菊池与太夫、実父花巻で病死、10日間の休暇・本丸普請御用の褒美に、美松儀兵衛らへ金支給
- 1/24 御絵師森休印ら、鹿角五ノ嶽本山見分に派遣（公儀の命による調査、領内高山絵図の提出）
- 1/26 花巻郡代岩間弥五兵衛、母病死で盛岡に戻る。高野庄兵衛病後に花巻へ赴任。
- 2/ 6 百岡権四郎及び佐藤脇兵衛の母、花巻で病気、各10日間の休暇
- 2/10 ・江戸下り松前藩主、花巻に一泊
- ・幕府の命で尾去沢産銅を大坂へ廻送、40万斤、8月まで
- 2/22 江戸御末鍵番交代、金矢与次右衛門(中風)→花巻御給人神山幸右衛門
- 2/24 花巻通せり駒役人交代、豊巻新右衛門→斗内清五郎
- 2/27 鬼柳通代官交代、設楽六郎左衛門(江戸へ)→加村弥次兵衛
- 2/28 津軽領入合山永手銭（野辺地境馬門村）
- 2/29 花巻御給人岩間五平次(9歳)、極印奉行岩間治五右衛門引き取り養育(6/1盛岡で継ぎ目御札)
- 3/ 2 ・花巻御給人中野金右衛門、安俵代官から御新殿御用に異動
- ・花巻御金奉行交代、中館治左衛門(病気)→上田兵内
  - ・花巻川奉行交代、上田兵内→平沢八十右衛門
- 3/22 安俵通駒場山、花巻御山奉行支配から、御除高御蔵奉行支配となり、立林とする。
- 4/11 松前藩城下大火、及び沼宮内新町で26軒焼失
- 4/12 ・家督、江釣子兵右衛門→子の兵太夫
- ・継ぎ目、三田源右衛門→子の茂右衛門（2人扶持）
- 4/21 鬼柳代官交代、小山田与次平(病気)→簡作右衛門
- 4/25 金矢与次右衛門、台で湯治（二廻り）、倅又三郎同行
- 4/30 藩主23日江戸出立(5月3日花巻休憩)
- 5/ 1 花巻御取次交代、長沼治五右衛門(病気)→富沢佐左衛門
- 5/ 4 花巻郡代から端午の祝いとして干し鱈3枚と湯蕨5把差し上げ
- 5/21 北川新左衛門ら処分、人首喜左衛門は毛馬内内蔵預かり、昆喜右衛門閉門
- 5/25 松川藤四郎、上田七右衛門預かりとなる。
- 6/ 3 ・花巻御与力の簡甚右衛門、五日市伝右衛門、伊藤万之丞、名須川小兵衛、名須川吉右衛門、郡代の申請で御給人に昇格 注-7月9日盛岡で目見え
- ・郡代高野庄兵衛、老齢と歯痛で依願辞職（後任決定までは留任）
  - ・跡式、長坂三右衛門→子の平八郎（3駄2人扶持）
- 6/ 4 ・黒沢尻物留番交代、赤沢庄右衛門→八木橋小十郎 ・大畑湊で火事
- 6/ 5 花巻郡交代、高野庄兵衛→足沢円右衛門、妻子花巻へ引越しの指令(6/21藩主に目見え)
- 6/ 8 ・松前家へ暑中見舞い、鮎鱈1桶（カタクリ粉は贈答を見送り） ・儉約による人員削減
- 6/10 ・嘉村弥次兵衛、重病により鬼柳代官依願辞職（13日後任に成田武兵衛）
- ・枇杷の実を大槌村と山田村の暖かい場所に植樹
- 6/15 御料理鈴木権右衛門、花巻の老母見舞いに休暇7日間 注-10月29日藤左衛門と改名
- 6/25 松林寺子安地藏堂祭礼、警固に花巻町奉行太田半兵衛と代官長坂十太夫派遣
- 6/28 松河小弥太、花巻の老母看病に5日間の休暇
- 7/ 6 大工奉行交代、江本八左衛門→久慈金内
- 7/ 7 ・鳥討、花巻通は中野新六、和賀通は高杉甚右衛門、石鳥谷通は佐藤弥平次
- ・花巻郡代岩間弥五兵衛戻り、鮎1鉢持参
- 7/11 櫛引与助、御元所取次を解任され、花巻へ戻る
- 7/17 ・花輪郡交代、横浜金十郎→中村武左衛門 ・田名部佐井湊で城米船破船
- 7/23 跡式、煤孫治介→子の惣次郎(100石)、中館治左衛門→子の宇左衛門(10駄、8/28藩主に目見え)
- 7/28 折居了探、花巻の親嘉兵衛病氣見舞いに7日間の休暇

**【享保4年・1719】 藩主利幹在府、この年より7カ年の儉約始まる**

- 8/ 3 鉄砲改めに、御歩行派遣  
8/19 花巻御給人藤根伝兵衛、当夏切米証文紛失し、遠慮の処分(26日解除、9月13日発見)  
8/21 金矢与次右衛門、台で湯治休暇(16日間)  
8/23 和賀川船渡し場所普請、門屋介右衛門見分に基づき実施認可  
9/ 4 松川藤四郎預かり先、上田七右衛門→浜田甚五兵衛(7日移る)  
9/10 花巻郡代岩間弥五兵衛、花巻へ引っ越しにつき人足と伝馬を貸与  
9/19・出淵勝右衛門、台で湯治休暇(一廻り) ・郡代足沢円右衛門、鮭2尺差し上げ  
10/10・松川藤四郎預かり先、浜田甚五兵衛(御者頭役)→石川助右衛門  
・鈴木久右衛門と小田島源助、台で湯治休暇(二廻り)  
10/17・花巻本蔵奉行と蔵目付の宿賃、三町負担から蔵入り高より負担に変更、蔵奉行1年8貫文、蔵目付1カ月1貫400文  
10/24・江戸御末鍵番交代、神山幸右衛門→花巻の苫米地長左衛門(来春江戸登り)  
・真寿院(信恩正室)番人、駒嶺兵九郎→花巻の門屋助右衛門(来春江戸登り)  
11/17 跡式、獅子内(鹿討)弥五右衛門→子の伝兵衛  
11/18 鷹の餌鳥討、郡山へ中野半七、石鳥谷へ大守金之丞  
12/ 6 佐藤藤兵衛、花巻の実母病気見舞いで20日間の休暇  
12/15・花巻より年頭のお礼、100石以下は江戸参勤の折花巻で目見え、それ以上はこれまで通り  
・改名、上田九郎助→同惣兵衛、新渡戸伝蔵→同伝次、大工棟梁儀左衛門→壱右衛門  
12/23 跡式、金矢甚十郎→子の甚太郎(6駄2人扶持)  
12/25 松川藤四郎従弟の四戸新八、遠慮解除  
12/26 郡代より披塩引き3枚と串柿10連、干シワラビお歳暮に差し上げ(飛脚利用)  
12/30 佐久間武右衛門、安俵高木代官を病気で辞任。子の横浜弥四郎介抱に花巻へ。

**【享保5年・1720】 利幹在藩**

- 1/ 2 花巻郡代足沢円右衛門、熨斗目長袴着用し、盛岡城新丸大書院で年始挨拶  
1/ 5 花巻郡代岩間弥五兵衛、年始お礼を病気で欠席(7日診察に島立甫を花巻へ派遣)  
1/12・せり駒役人、郡山大迫遠野通へ佐々木惣七を派遣  
・八幡寺林代官交代、鳥谷部嘉左衛門→大矢三右衛門  
・安俵高木代官交代、佐久間民右衛門→中島才兵衛  
・大迫代官交代、立花儀右衛門→花輪七右衛門 ・大迫御山奉行交代、大里弥七郎→田頭利兵衛  
・大工奉行交代、田鍍太郎右衛門→竹村清兵衛  
・黒沢尻物留番に、中島伝右衛門、吉田新七、沖孫太夫  
・鳥討、花巻へ中野半七、和賀へ大守金之丞、石鳥谷へ佐藤弥平二  
1/15・幕府へ領内打ち物鍛冶の報告、新藤平兵衛国信と同次郎兵衛義国の2名  
・真寿院(信恩正室)番人、赤沢与五兵衛(老衰)→新渡戸伝治(江戸登り)  
1/26・花巻相場米御蔵奉行交代、三田文右衛門→小野寺市右衛門  
1/26・花巻新御蔵奉行交代、新渡戸伝治→上野十郎兵衛  
2/ 7 鳥討に際し、花巻御給人が山奉行の命を受け同行する  
2/ 9 菊池三郎兵衛、花巻の老母看病で10日間の休暇  
2/15 盛岡城月次御礼、花巻郡代岩間弥五兵衛と御給人金屋甚太郎。岩間は病後で美濃魚1匹持参  
2/16 安俵高木代官と和賀稗貫御新田御用下奉行兼任の中野金右衛門、下奉行専任となる  
2/19 痰咳煩いの長嶺藤助、花巻の伯父中島権四郎家で養生  
2/20 安俵高木代官交代、中野金右衛門→太田半七(郡代の目論みを認可)  
2/27 松川藤四郎預かり人、石川助右衛門(10月以来)→石井作左衛門  
2/29 黒沢尻物留番中島伝右衛門、食傷のため盛岡で養生  
3/ 2 山元嘉藤二、台で湯治(二廻り)  
3/ 5・二子代官交代、田頭多左衛門(病気)→小田代又右衛門  
・他領出小荷駄の改め場所、鬼柳、立花、黒岩、浮田、土深井、松山、越中畑について、三戸、盛岡、福岡の3箇所改め極印をつける

## 【享保5年・1720】 利幹在藩

- 3/ 6・久慈善左衛門、台で湯治5日間 ・改名、鳥討の大守金之丞→同金太夫
- 3/10 花巻御給人高橋瀬兵衛の娘婿養子に、苫米地長左衛門弟の小三郎(21歳)
- 3/17 高山御用の御絵師森休印らへ、褒美金500匹下賜
- 3/21 和賀川雪代で洪水
- 3/22 江戸参勤の藩主、花巻一泊(和賀川渡し舟済む、4月3日江戸着)
- 3/24 上野左四郎、花巻の実母看病で休暇20日間
- 3/26 宮古通門村の葛巻覚弥知行肝入家で出火、捨て馬札、宗門札、人売買札の3枚焼失
- 4/ 7 公儀より銀貨通用の通知
- 4/12 長嶺市平、花巻の実父看病に10日間休暇
- 4/16 郡山通彦部村と大迫通佐比内村百姓の間で草狩場争論が決着
- 4/26・浅草御蔵の火の番役に、17日付で盛岡藩命じられる。 ・米高値のため、盛岡で米留
- 4/28 藩主実母の広照院、盛岡城で病死
- 5/ 8 大迫へ黄精掘りに関如仙と岩間壱兵衛を派遣(6月12日江戸送り)
- 5/23 鴨沢十五郎、台で湯治休暇(一廻り)
- 6/ 6 公儀献上の馬7日江戸へ送り、途中郡山と花巻で一泊
- 6/ 7 大沢甚右衛門、台で湯治休暇(一廻り)
- 6/18 江釣子小五郎、台で湯治休暇(二廻り)
- 6/22 多田十三郎、花巻で療養10日間
- 6/27 秋の江戸登りで、御末所番人に三田軍右衛門(7月8日病気で辞退)
- 6/28 松前志摩守へカタクリ粉など暑中見舞いに送る
- 7/ 3 松川藤四郎預かり人、石川作左衛門(2月以来)→矢幅八右衛門
- 7/ 7 秋の鳥討、花巻へ佐藤弥平次、和賀へ中野半七、石鳥谷へ大守金太夫
- 7/11 八戸藩鑑改め、花巻郡代まで届く
- 7/13 花巻郡代足沢円右衛門子の内記、養生のため盛岡に戻る
- 7/22 花巻の立花留で初鮭かの1尺(花巻足軽2人付け江戸送り、23日二番鮭)
- 7/30・花巻小瀬川の大師堂大破、掲題の杉払い下げを認可 ・和賀郡駒ヶ岳観音堂修復、宝永年中建立し大破の旨仙台領別当から報告あり、御境古人頭高屋権之丞の申し出、大工小頭同行し見分、板葺きすべて朽ち、内陣雨漏り、屋根葺き替えの必要あり、
- 8/22 金矢与次右衛門と同又三郎、台で湯治休暇(二廻り)
- 8/25 宮杜八右衛門、台で湯治休暇(二廻り)
- 8/26 カタクリの根、内々桑山内匠頭へ差し上げ(のち9月5日公儀から薬種の照会あり)
- 8/29 献上の菱喰、花巻の鳥討佐藤弥平次討ち上げ
- 9/ 4 瀬川権八、台で湯治休暇(二廻り)
- 9/11 駒ヶ岳観音堂8月22日取り付け、9月8日竣工、双方立ち会い(郡代報告)
- 9/12 久慈兵作、台で湯治休暇(三廻り)
- 9/17 附田助内、台で湯治休暇(一廻り)
- 9/18 江苅内政右衛門と美濃部甚助、台で湯治休暇(二廻り)
- 10/ 1 八戸侯御買い米(花巻、郡山、黒沢尻で7,000俵)、昨年通り差し上げ
- 10/13 小田島源助、台で湯治休暇(二廻り)
- 10/16 黒沢尻御蔵目付に設楽宇太夫、花巻本御蔵目付に長山忠左衛門、同新御蔵目付に長内文蔵
- 10/23・領内宗門改め、稗貫郡27,169人、和賀郡34,178人、花巻町5,055人  
・寺林八幡通代官大矢三右衛門、病気で公儀御用馬役に代役
- 11/ 3 煤孫惣次郎弟の仁兵衛10月10日欠落
- 11/13 松川藤四郎預かり人、矢羽々八右衛門→儀俄十右衛門
- 11/23 跡式、宮杜清右衛門(春江戸より戻る)→次男松之助(50石、兄五郎吉病身)
- 12/ 6 御絵師森休印へ、公儀提出のかもしか作図で、金1歩支給
- 12/26 花巻郡代より歳暮祝い、鮭披き3枚、干し薇10把、串柿10連、飛脚で届く。花巻一日市町25軒、生活困窮により御仮屋御用と往還御用できかね、花巻村から1年間助伝馬322匹と人足162人の支援。村々へは金定めで1年5両2歩ずつ救い伝馬料を10年間へたが、継続5年の証文を出す



【享保6年・1921】 藩主利幹在府、5月下向

- 1/13・鬼柳黒沢尻代官成田武兵衛→沖弥一右衛門 花巻本御蔵奉行四戸武兵衛→工藤弥右衛門  
・大迫御蔵奉行交代、辻久左衛門→佐藤弥次兵衛  
・黒沢尻物留番に、高橋四郎左衛門、儀俄権左衛門、生方次郎兵衛の3人
- 1/16 松前侯、12月21日死去
- 1/24 教浄寺に下馬札
- 2/6 花巻本御蔵奉行工藤弥右衛門、子の平助を家来扱いで役所見習いに同行を認可
- 2/8 花巻一日市町助伝馬人足役、宝永8年(1711)から10カ年毎年5両2分ずつ花巻村で救援、新規に5ケ年継続で年2両3歩。
- 2/13 二子万丁目代官交代、黒沢小弥太→山本嘉藤次
- 2/19・継ぎ目、岩清水長八→弟の長左衛門(88石)、平沢嘉兵衛→子の庄内(2人扶持)  
・大矢利兵衛預かりの歩行伊藤九郎左衛門養子の庄九郎、病身で離縁され、実兄で花巻御給人伊藤万之丞へ戻る
- 2/22 上野左四郎、生活不如意のため7ケ年兄三田定右衛門を頼り、花巻へ移住
- 3/3 雪下稲刈り見分のため、勘定頭を花巻へ派遣
- 3/19 花巻相場米御蔵廃止、同蔵奉行小野寺市右衛門と石沢孫市解任
- 3/23 松川藤四郎預かり人、儀俄十右衛門→四戸所左衛門
- 4/1 花巻で3月29日巳下刻大火、火元は川口町下丁五郎助(7/20逃亡)。侍屋敷、町屋、御蔵、長屋の200軒焼失。花巻郡代岩間弥五兵衛と足沢圓左衛門、町奉行太田半兵衛と伊藤次郎右エ門、遠慮を願い出、却下。
- 4/4 花巻大火の続報：町屋54軒半焼、中小路亀ヶ守久右エ門、築田通益、中嶋権四郎、石川圓兵衛、工藤吉左エ門、佐藤共右エ門、岩間傳之助、梅木助左エ門、高濱友右エ門、小田嶋勘之丞、一方井嘉助、佐々木治兵衛、小野寺惣左衛門、太田平七、岩清水長左エ門、三田文右エ門、神山忠内、小野寺長助、平賀儀兵衛、柏葉三右エ門、堀内定右エ門、小屋敷与五兵衛、中嶋源内、藤枝金六、金田一八右エ門、鈴木与九郎、梅木佐五右エ門、鈴木千太郎、伊藤庄左エ門、宮森松之助、以上30軒焼失、南館の松川八左衛門、富沢佐左衛門、戸来軍兵衛、石沢孫市の5軒焼失、新御蔵の大俵蔵(長さ23間、横5間)と小俵蔵(長さ25間、横4間半)、相場御蔵(長さ15間、横5間)、大豆御蔵(長さ13間、横5間)、斗御小屋(長さ21間、横4間)、御長屋(長さ33間、横3間)、御馬屋(長さ26間、横3間)、御蔵前御門(板葺き、長3間、横2間)、大工御小屋(長14間、横4間)、菱御矢倉(板葺き、長5間、横2間半)、中御門先御矢倉(板葺き、長2間、横1間半)、御武具蔵(3間の母屋あり、長5間、横3間)、鐘堂并御破損小屋、御登らせ米御用の荷組分の御米1,035俵(4斗3升入り)、御大豆252俵(4斗3升入り)、御用米の米1,970駄余、相場御米28駄片馬(7斗荷)、御武具蔵の小鎌10挺、山刀14挺、小旗竿230本、わっぱ271、分木1,080、木綿火縄51、小竿まかり手共28本、焼失。郡代岩間弥五兵衛と足沢圓右エ門訴え。→幕府へ花巻の火事105軒焼失を報告
- 4/20 鴨沢忠右衛門、台で湯治休暇(二廻り)
- 4/22 跡式、四戸新八→子の武久(4駄2人扶持)
- 4/28 殿様、3月28日江戸発駕。前沢の藩主お迎えに、にしんと鴨1箱ずつ花巻御給人届け
- 4/29・花巻大火で、郡代の岩間弥五兵衛と足沢圓右衛門、花巻新御蔵奉行の一方井武兵衛・上野十郎兵衛に遠慮を許す。中野対馬知行地の稗貫郡太田村稻荷堂大破、修復のため境内杉12本伐採
- 5/3・花巻郡代足沢圓右衛門と岩間弥五兵衛、端午の祝いに干し鱈3枚と湯蕨5把差上げ  
・下向の藩主、午刻花巻着(夜戌上刻花巻発)
- 5/7 跡目、高橋八郎右衛門→子の多右衛門(60石、28日盛岡城で継ぎ目お礼)
- 5/28 松川藤四郎預かり人、四戸所左衛門→檜山五太夫
- 6/1 岩間弥五兵衛、御用で花巻へ罷り越す、美濃魚2本差し上げ
- 6/13 家督、猪去源蔵(老衰)→子の内蔵丞(7月1日月次御礼)
- 6/23 黒沢尻御蔵、ひらた奉行交代、吉岡半之丞→舟越清助
- 7/7 鳥討、花巻へ中野新六、和賀へ大森金太夫、石鳥谷へ高杉甚右衛門
- 7/12 跡式、中村門右衛門→子の定八(100石、28日月次御礼)
- 7/13 丹羽正伯、薬草調査で奥羽の山々見回り

- 閏7/16 鬼柳通代官交代、沖弥一右衛門→嘉村弥次兵衛  
 閏7/25 勘定頭松田伝蔵、当作見分のため花巻などへ派遣  
 8/3 跡式、柏葉安右衛門→子の三右衛門(58石、28日月次御礼)  
 8/7 献上の菱喰1羽、花巻で中野新ろく討ち上げ、塩で料理  
 8/13 花巻胡四王別当の門兵衛、跡式(3石2斗)  
 9/14 照井只七、8月28日逐電  
 9/19 黒沢尻蔵目付に、青木勘太夫、沢田弥兵衛、毛馬内伊右衛門、阿野定右衛門の4名  
 10/2 花巻四日町の内川原町の者共困窮、空き家もありお救い米願い出、焼き米12駄支給(郡代報告)  
 10/13 翌年の長崎御用銅に、尾去沢産銅40万斤  
 10/15 煤孫惣次郎養子に、弟の治三郎  
 10/30 近江商人、鬼柳黒沢尻通百姓への売り掛け金取り立て  
 11/11 上田惣兵衛弟の惣七、中村門兵衛養子となる  
 11/13 松前志摩守、下向  
 11/24・太田左太夫、花巻へ洗濯休暇20日
- 【享保6年・1921】 藩主利幹在府、5月下向**
- 11/24 家督、中島権四郎→子の忠右衛門、平沢継右衛門→子の主蔵 注-12月26日目見え  
 12/7 家督、新渡戸九蔵(老衰)→甚内 注-12月26日目見え  
 12/10 黒沢尻物留番の生方次郎兵衛、病気で物留番を辞任  
 12/23・花巻郡代足沢円右衛門、病気により郡代を辞任 ・改名、松岡寅松→同三太夫

**【享保7年(1722)】**

- 1/13・鳥討、当春は仰せ付けず
- ・八幡寺林通代官交代、長坂十太夫→蛇口六郎左衛門
  - ・大迫代官交代、久慈弥次右衛門→阿野定右衛門
  - ・花巻本御蔵奉行交代、神山義右衛門→小野寺惣左衛門
  - ・花巻新御蔵奉行交代、一方井武兵衛→川村佐左衛門
  - ・黒沢尻御蔵奉行交代、石川久七→佐藤武右衛門
  - ・黒沢尻物留御番交代、高橋四郎左衛門、儀俄権左衛門、生方次郎兵衛→野辺地伊右衛門、柴内理助、西川小八郎
- 1/21 花巻御給人岡百松、伊勢参宮のため50日休暇  
 1/23 今朝弾正宅で代官ら堅目仰せ付け  
 1/29 万丁目通豊沢村藤内、手落ち白鳥1羽発見し、褒美銭300文下賜  
 2/2 跡式、花巻御給人伊藤万之丞→杵松(30石余)  
 2/8 境御用の者調査  
 2/21・花巻御給人須川茂左衛門田屋守(召仕え)清太郎、御蔵破りにより成敗、斬罪獄門となる。  
 ・花巻御給人簡治部左衛門、長男で毛馬内御蔵奉行の簡五右衛門切腹により遠慮していたが、許される。
- 2/28 月次御礼で、継ぎ目鳥目として那須川(名須川)吉十郎跡目  
 2/29 安俵通谷内村権現堂修復、別当治兵衛  
 3/9 坂水長次郎、病気で境御用御免となる。  
 3/10 家督相続、花巻御給人太田平右衛門→世倅平七(16日盛岡城で継ぎ目御礼)  
 3/11 花巻で病用に当たる佐々木友清弟子の小野寺円清、花巻で藩主に目見え、特に許される。  
 3/18 湯屋と鍋屋の煙火、見間違えることから、湯屋は藁で箒、鍋屋は丸板を目印とすることとなる。  
 3/20 和賀川洪水を花巻郡代と御舟奉行注進し、見分に四戸帯刀を派遣。旅籠代金3歩支給  
 3/21 藩主参勤に発駕。  
 3/26 四戸市左衛門倅の政八郎、台で湯治休暇(9日間)  
 3/29 松田弥兵衛知行所立川目村久吉、20日欠落  
 4/16 跡式、花巻御給人鈴木卯之助→富之助(扶持方)  
 4/29 花巻御給人小野寺惣左衛門、前年類焼した居宅建築できず、知行所務1/4貸し上げを免除

## 【享保7年(1722)】

- 5/12 大迫通龜ヶ森村久右衛門弟の久作(39歳)、2月伊勢抜け参りし、下向途中仙台領黒川郡三ノ関村で病気となり5月1日病死
- 5/13 長嶺市平、台で湯治休暇(15日間)
- 5/19 長崎奉行より大坂廻銅の指示(6月13日にも同様の記事)
- 5/20 花巻御給人岩間伝之助居宅、3月15日全焼し、夏暮れの切米支給
- 5/21 佐藤東兵衛、土沢村住いの実母看病のため10日間の休暇
- 6/18 江釣子小五郎、兄で松林寺別当小田嶋六位病氣看病に、10日間休暇
- 6/26 前藩主信恩正室の真寿院番人交代、佐々木十太夫→花巻御給人柏葉三右衛門
- 6/晦 花巻御役医築田通益(60歳)、持病の痰咳と歩行不自由により、世倅通迪(30歳)病用となる。  
→10/15 通迪、跡式継承(2人扶持)
- 7/12 上げ米の制交付、藩主の参勤3月、御暇(下向)9月
- 7/13 花巻郡代岩間弥五兵衛、血忌のため忌御免
- 8/26 黒沢尻御蔵奉行、ひらた御用共の平賀儀兵衛、当分から直々勤め。
- 9/4 喜庵様領花巻、西宮野目、黒沼の当毛御用
- 9/13 二子万丁目通代官交代、山本嘉藤次→当分、関岡右衛門(10月4日直々勤め)
- 9/16 花巻本御蔵目付に中野覚平太、同新御蔵目付に下河原武右衛門、黒沢尻御蔵目付に沢田弥兵衛任命。
- 9/18 八月中の洪水で花巻二郡川欠見分に、勘定頭宮手茂兵衛派遣
- 10/9 佐藤甚之丞、湿疹治に台で湯治治療(1廻)
- 10/10 勝又彦右衛門、持病の痔治療に台で湯治休暇(2廻)
- 10/14 坂本茂八郎、持病の打ち身治療に台で湯治(1廻)
- 10/15 花巻御給人名須川茂次右衛門、世倅郷内病死、次男彦内を嫡子。  
・跡式、金田一覚内→子二郎八(30石)、四戸武久→弟十蔵(4駄2人扶持)
- 11/5 足沢円右衛門、馬場丁から仁王新丁へ屋敷替え
- 12/26 花巻郡代岩間弥五兵衛、干蕨と串柿献上
- 12/28 花巻郡代へ、買い物役所に準ずるよう、仰せ渡される

## 【享保8年(1723)】利幹公在府(4月帰国)

- 2/5 跡式、花巻御給人岩間左助→子弥源太(2人扶持)  
・伊達吉村鹿狩で領境に来遊の伝聞
- 2/6 八幡寺林通代官交代、大矢三右衛門→江柄九郎兵衛  
・安俣高木通代官交代、中嶋才兵衛→大守茂太夫  
・大迫通代官交代、花輪七右衛門→大矢三右衛門  
・沢内御蔵奉行交代、円子惣五郎→大ヶ生長五郎
- 2/7 黒沢尻鬼柳代官交代、簡作右衛門→小山田善左衛門  
・花巻郡代岩間弥五兵衛一人で勤務、褒美に米20駄支給
- 2/17 花巻取次交代、高橋多右衛門→花巻御給人岩間長兵衛
- 3/16 中嶋才兵衛子の善六、打ち身治療に台で湯治休暇(2廻)
- 3/21 跡式、松林寺別当六位→子兵内(30石、六位弟宇平治申し出による)  
・寺林の光林寺、継ぎ目のため本山の藤沢へ上る  
・花巻御蔵奉行工藤弥右衛門、片頭煩い休暇願ひ
- 3/晦 殿様、辰刻鬼柳御仮屋着、巳下刻花巻着(19日江戸発、4月1日盛岡着城)
- 4/4 酒値段、諸白1升56文、並酒1升40文
- 4/15 黒沢尻御蔵奉行の舟越清助、重病で辞任(24日後任に織笠八郎兵衛)
- 4/20 新田下奉行に花巻御給人中野七兵衛任命され、御除高新田御用となる。  
・花巻新田帳簿引継ぎ
- 4/22 伊藤次郎右衛門、花巻御町奉行を病気で辞任し、当分太田半兵衛一人となる。  
・佐々木友清、打ち身治療に台で湯治休暇(16日間) ・秋田領と配水で評定
- 4/24 御絵師森休印、田名部から津軽領境まで派遣される

## 【享保8年(1723)】利幹公在府(4月帰国)

- 4/28 よそ者の扱いで、花巻と花輪両郡代へ指示
- 5/1 二子通代官交代、関岡右衛門→細越嘉右衛門
- 5/3 花巻郡代岩間弥五兵衛、端午祝いに干鱈3枚と湯蕨5把を献上
- 5/13 殿様、雫石野へ鷹狩
- 5/20 花巻郡代に日戸五兵衛任命され、現米50石加増(計350石)、御用人格で勤務、返礼に肴1折献上  
・花巻御町奉行交代、太田半兵衛→長坂十太夫(郡代へ通知)
- 6/1 かたくりの粉、今日献上のため江戸登り
- 6/3 江柄九郎兵衛、寺林通代官病気で辞任願いを慰留され、病気療養扱い。
- 6/3・花巻郡代日戸五兵衛、4日花巻赴任に際し藩主より9ヶ条申し渡し  
①境目念入り ②諸士の武備心得、怠慢なきこと ③武具など破壊なきよう心得 ④諸役は申し遣わし、役人の人選は郡代で選抜し報告する ⑤諸士の善悪勤功、油断なきこと ⑥諸願は速やかに吟味し、了簡に及ばないことは伺い上げる ⑦公事沙汰念入りにし、軽いものは郡代に一任し、了簡に及ばないことは伺い上げる ⑧農業など懈怠ないよう、諸代官と相談する ⑨火の元念入りに用心
- 6/7 花巻郡代の岩間弥五兵衛、解任され、日戸五兵衛一人勤めとなる。
- 6/18 江釣子小五郎、松林寺村の老母看病で10日間休暇
- 6/19 花巻郡代日戸五兵衛、累様改名祝儀に肴1折献上  
・小田島五右衛門、湿疹治療に台で湯治休暇(10日間)
- 6/20 不快の累様治療に、花巻町医の松井道円盛岡へ招請される(7月5日金2両支給され、花巻へ戻る)
- 6/23 黒沢尻物留交代、岩根又兵衛→美濃部作左衛門
- 6/28 鶉30羽とかたくりの粉5袋、松前志摩守へ暑気見舞いに送る。御書の状箱とともに野辺地代官へ遠使派遣。
- 7/7 鳥討、花巻へ中野新六、和賀へ佐藤弥平次、石鳥谷へ高杉甚右衛門を派遣  
・花巻瑞興寺住職病身により、後住に弟子で二子村永明寺不遷、申渡し(9/1月次御礼で入院の目見え)
- 7/9 殿様、盛岡城大書院で虫干しを御覧
- 7/12 黒沢尻物留交代、金矢与平次→野村又五郎
- 7/13 花巻御給人梅木佐五右衛門、8日から痰疝煩い、目見えしない世倅市之助(7歳)、慈悲により名跡認可される→9月25日跡式、二人扶持と四季施2両で認可  
・御雇物書の懸端(欠端)清次郎、花巻の親看病で20日間休暇
- 7/28 月次御礼で、花巻御給人三田軍右衛門子の条助、目見え  
・花巻辻ヶ鼻より、初鮭1尺取り上げ、塩漬けにし5日間の日程で江戸送り
- 8/3 花巻郡代日戸五兵衛、藩境塚築き直し、5日から着手の報告
- 8/8 初鮭1尺を献上した花巻似内村孫四郎へ、褒美に御蔵米3駄
- 8/12 大迫代官交代、阿野定右衛門→江本八左衛門
- 8/16 大風雨10日あり、四日町2軒倒壊と鬼柳御仮屋破損を花巻郡代報告、  
・洪水で流出した松角、花巻で留め置き、花巻御用に使用
- 8/17 鬼柳で洪水発生し高札を舟に乗せたが、水損した船道高札1枚書直す
- 8/29 煤孫惣次郎家来藤吉と中村定八下女さつ出入りで6月1日閉門処分した花巻の伊藤源五右衛門と定八叔父の中村左兵衛門、許される。
- 9/10 太田左太夫、花巻の父平右衛門看病のため10日間休暇
- 9/12 花巻町奉行に、苜屋五郎左衛門を任命(相手長坂十太夫)、支度出来次第引越し。  
→17日六郎左衛門と改名。花巻郡代役宅の1軒を半分仕切り貸与され、修繕は勝手次第となる  
→18日支度金3両支給→28日花巻へ引越し
- 9/18 鳥討へ羽織と股引支給し、心得を申し渡す
- 10/2 高橋久内、腫れ物あり、台で湯治休暇(2廻)
- 10/11 花巻御給人平賀儀兵衛、一昨年(1722)の川口町火事で居宅類焼し小屋懸けの状態、当年分の1/4貸上げ免除  
・安俵通駒板村藤九郎、一日市町嘉八を槻木村で博打口論し殺害、花巻町引き回しさらし打ち首、3日間獄門の処分(花巻郡代へ指示)

### 【享保8年(1723)】利幹公在府(4月帰国)

- 10/19 一昨年花巻町在々で騒動あり、首謀者礼入りし判明、花巻郡代詮議し処分を仰ぐ  
10/晦 藩の宗門人数、公儀へ9日報告  
11/2 黒沢尻物留交代、美濃部作左衛門→野村又五郎  
11/11 花巻御給人一方井嘉助弟で浪人の庄右衛門、前年3月3日川口町伊兵衛に切りつけ、他領追放となる  
11/19 花巻郡代日戸五兵衛、累様髪置き祝儀に肴1折献上し、世倅右内を派遣し盛岡城内八幡の烏帽子石に網掛けさせる  
12/13 江戸下屋敷門番に、花巻御給人小山田善右衛門  
12/14 花巻郡代日戸五兵衛、娘病死で忌御免  
12/26 花巻郡代の正月御礼は元日、以前は2日と6日の2回  
12/28 花巻郡代日戸五兵衛、鮭披3枚と串柿10連、干蕨10把歳暮に献上し、返礼に肴1折下賜

### 【享保9年(1724)】藩主参勤(3月江戸へ)

- 1/1 花巻郡代日戸五兵衛、盛岡城で正月御礼  
1/2 花巻御給人(100石以上)、二人ずつ正月御礼 ・殿様、向中野へ鷹狩  
1/6 花巻御給人二人ずつ、正月御礼  
1/13 八幡寺林通代官交代、蛇口六郎左衛門→立花新蔵  
・二子万丁目通代官交代、小田代又右衛門→長山忠左衛門  
・安俵高木通代官交代、太田平七→下田三太夫  
・花巻本御蔵奉行交代、工藤弥右衛門→一戸儀兵衛  
・大迫御蔵奉行交代、佐藤弥次兵衛→中村兵九郎  
・黒沢尻物留に、生方次郎兵衛、岩間百右衛門、儀俄権左衛門  
1/15 花巻新御蔵奉行交代、上野十郎兵衛→花巻御給人中島忠右衛門  
・向中野見前御通代官交代、高田小平→花巻御給人簡作右衛門  
・沼宮内通代官交代、宮下多右衛門→花巻御給人小田代又右衛門  
1/28 鬼柳代官交代、小山田善左衛門→矢幅小助  
2/4 花巻御鳥見和田三右衛門婿養子に花巻御給人上野十郎兵衛弟の甚五兵衛  
・殿様参勤日程、9月21日盛岡発、13日振り江戸着  
2/12 沢田金七、養父着平病氣療養で花巻滞在、介護のため20日間の休暇  
2/14 花巻御給人田頭多左衛門(45歳)、太田半兵衛次男の又六(23歳)を養子  
2/16 長嶺藤助、療養に花巻の中島忠右衛門所へ移る  
2/19 和賀川洪水見分に、御者頭横田逸角を派遣  
2/21 殿様、21日寄る花巻着城(3月4日江戸着)  
3/4 万丁目通円万寺村孫八、畑で真鶴1羽発見  
3/28 沢内通大田村浄円寺、25日焼失、本寺の願教寺訴え  
3/29 江刺舎人知行田瀬村本田、新田とも竿通し、出高分は葛西市右衛門本知へ加える→4/6検地に米田与五右衛門派遣→9/15田瀬村7石852知行  
4/9 花巻成島寺、前年台風で大破し、修復のため境内杉伐採  
4/11 所々御蔵奉行で非番のものへ扶持支給を停止  
4/晦 万丁目通代官永山(長山)忠右衛門、病気で依願辞任 →閏4/3後任に四戸久右衛門  
閏4/8 昆喜右衛門、痔治療に台で湯治休暇(1廻り)  
閏4/12 夏酒値段、諸白1升56文、並酒1升40文  
閏4/17 鬼柳通野通に狼出没、野放馬5頭喰われ、足軽が鉄砲で駆除→5月4日狼取上げ者へ褒美錢支給  
閏4/28 夏油山中に一昨年道筋をつけたが、野草が茂し、草刈りとなる  
5/2 家督相続、花巻御給人佐々木金左衛門(病身)→世倅平八  
5/3 江戸と在所往来飛脚に褒美金支給  
5/4 花巻郡代日戸五兵衛、端午祝儀に干し鱈3枚と湯蕨5把献上  
5/7 公儀献上のかたくり粉試食あり、家老と御用人へ吸い物と酒振る舞う

## 【享保9年(1724)】 藩主参勤(3月江戸へ)

- 5/9 高橋四郎左衛門、湿疹治療に台で湯治休暇(1廻)
- 6/6 黒岩村白山寺修復
- 6/17 安俵高木通代官下田三太夫、病気で依願辞任
- 6/25 松林寺子安地藏祭礼23日挙行、警固に花巻町奉行刈屋六郎左衛門と通代官江柄九郎兵衛担当
- 6/29 黒沢尻物留番所、26日と27日洪水で大破、蔵奉行は御役屋へ移る
- 7/3 改名、花巻御給人高浜友右衛門→喜三郎、金田一伊兵衛→伊右衛門、佐藤友右衛門→長右衛門
- 7/4 盆中の辻相撲、踊り、花火停止
- 7/4・八幡寺林通代官交代、立花新蔵→当分宮下太右衛門(11月2日直々勤め)  
・高木安俵通代官交代、下田三太夫→当分黒沢小弥太(11月2日直々勤め)  
・鬼柳黒沢尻通代官に当分服部伝左衛門任命(11月2日直々勤め)
- 7/7 二子万丁目通代官当分の四戸久左衛門、4月晦日当分の任命としたが、江戸に伺いを立て直々申し付けとなる。・鳥討、花巻へ大森金太夫、和賀へ中野新六、石鳥谷へ佐藤弥平次
- 7/11 秋登り拜命の太田左太夫、洗濯休暇20日間、花巻へ戻る→21日下小路屋敷、洪水で流失
- 7/18 毛馬内勝臈と古川寿楽、矢幅勘次郎、台で湯治休暇(矢幅は2廻)
- 7/22 花巻立花留と南深堀川で鮭各1尺、塩漬けし江戸送り
- 7/28 鳥討、花巻へ大森金太夫、和賀へ中野新六、石鳥谷へ佐藤弥平次、錆判渡す
- 8/2 公儀へ6月26日洪水で受けた損毛高報告
- 8/6 八幡寺林通代官交代、江柄九郎兵衛→浅石治左衛門(9/6同一記事)
- 8/10 石鳥谷町馬継ぎで、延宝6年(1678)以来公用の伝馬に対応してきたが、郡山と花巻の間で公用の伝馬だけでは渡世できかねると訴え、商人荷物取り扱い、9月1日以降認可される。郡山代官と花巻郡代日戸五兵衛へ通知
- 8/12 当秋登の久慈弥左衛門、世倅弥太郎を知行所の寺林通糠塚村へ遣わす
- 8/13 初菱喰1羽、和賀郡鳥討の中野新六討上げ、6日の日程で江戸へ献上
- 8/16 妙泉寺より、早池峰山御殿ほか15日焼失の訴え  
・寺林通宮野目村藤助、手負い鶴1羽取上げ
- 8/17 毛馬内蔵人、持病の痔再発し療養のため、湯治休暇(1廻り)
- 8/19 奥寺六之丞、早池峰山参詣で4日間休暇
- 8/26 工藤伊右衛門、早池峰山参詣で12日間休暇
- 8/27 公儀据判の順達
- 9/3 二子通十二丁目村市十郎家、8月29日夜焼失、花巻郡代報告
- 9/9 杉村六郎右衛門の世倅惣五郎、湿疹治療に台で湯治(1廻)
- 9/10 米田与五右衛門世倅の八三郎、湿疹治療に台で湯治(1廻)、
- 9/15 川欠足高証文交付、野辺地伊右衛門(和賀郡太田村0石135)、四戸文左衛門(横川目村1石055)  
・宮野七郎、痔治療に台で湯治(1廻)
- 9/16 妙泉寺へ供養法料1両2歩支給
- 9/23 南部甲斐守(八戸藩主)より郡山、花巻、黒沢尻で御買米の上、1万7000俵川通しの通知  
・米田与五右衛門、台で湯治(1廻)  
・小館喜右衛門、湿疹治療に台で湯治(1廻)
- 9/24 江戸町奉行大岡越前守から、領分中から供出される酒樽用の杉近年高値、吟味依頼を受ける。  
→翌10年2月12日杉の供出は鹿角郡から能代まで川下げし、3ケ年の値段を提出
- 9/26 久慈金内、打ち身治療に台で湯治休暇(2廻)
- 10/4 殿様、鬼柳着、午刻花巻着、夜花巻立ち(江戸23日発)
- 10/8 上田又市郎知行所轟木村の甚之助、行方不明
- 10/12 跡式、花巻御給人神山幸右衛門→同八郎(花巻郡代へ通知、11/1盛岡城月次御礼で目見え)
- 10/23 久慈善左衛門、持病の痰煩い台で湯治休暇(2廻)
- 10/26 日戸宇右衛門、湿疹治療に台で湯治休暇(2廻)
- 11/5 千葉安兵衛、雑書下書きを殿様へ提出
- 11/9 妙泉寺大般若祈願、一カ年4度から3度に減らし、供養法祈祷は3度の内1月末寺揃え、5月と9月は1カ寺で勤めることとなる。

### 【享保9年(1724)】 藩主参勤(3月江戸へ)

- 11/16 花巻の坂水与四右衛門、元禄7年(1696)身帯召し上げ親戚預けとなっていたが、61歳で病死。  
坂水長次郎、花巻郡代へ訴え。
- 11/17 花巻御給人高橋太右衛門婿養子に、藤根伝兵衛次男の亥之次郎(13歳)
- 12/15 在々御給人諸士で在郷に住む者、書上げを命じられる
- 12/28 花巻郡代日戸五兵衛、鮭披3枚と串柿10連、干蕨10把献上、また御歳暮に着1折も献上
- 12/晦 花巻郡代日戸五兵衛、美鯉2尾と芹献上

### 【享保10年(1725)】 藩主利幹在府、6月病死、吉助様(信視)相続

- 1/2 花巻御給人50石以上、藩主に年頭御礼
- 1/3 初御鷹御祝に、花巻郡代日戸五兵衛着1折差上げ、夜謡い初めに参列
- 1/6 花巻御給人2人ずつ年頭御礼
- 1/7 奥寺孫左衛門の老母、花巻の奥寺八兵衛所で病死、5日間の休暇
- 1/15 黒沢尻物留番の沖孫太夫、一昨年江戸詰めで中症煩い、世倅只右衛門を番代に物留番勤務
- 1/16 遠所境の花巻郡代、野辺地・沢内・雫石の三代官へ申し渡し、他領へ銭荷付け通ると聞き、法度の品々他領へ持ち出し禁止。
- 2/6 酒値段、諸白1升40文、並酒1升28文
- 2/24 花巻御給人長坂十太夫の世倅、次郎兵衛(20歳)奉公見習として前年閏4月願い出、御家老席次ではなく、御広間御番勤務となる。
- 2/25 家老席で済ませてきた御用、藩主に申し上げることとなる。
- 3/7 家督、花巻御給人佐々木治兵衛(中風煩い)→治之助(26歳)
- 3/15 月次御礼、花巻刀指の猫塚藤次郎と竹村三郎兵衛
- 3/16 稗貫郡太田村で成田武兵衛知行所助左衛門家、12日焼失。花巻郡代から訴え
- 3/17・二子通太田村で鹿討権八知行所の助左衛門手廻し4人、1日欠落  
・同通湯口村で伊藤次郎右衛門知行所の小市、2月10日欠落。花巻郡代訴え
- 3/22 獵師鉄砲使用規定
- 3/23 南部甲斐守、21日下向 →4月3日盛岡着
- 3/25 沢内通長瀬野村八蔵手廻し6人、6日夜欠落
- 3/28 月次御礼、花巻信楽寺(初瀬より罷下り)
- 4/8 江刺舎人知行所谷内村万九郎家、5日焼亡し、馬2疋焼死。花巻郡代訴え  
・船大工棟梁忠太夫、勤務方宜しからず解任→11日後任に小頭藤次郎昇格
- 4/12 堀切新兵衛、落馬による打ち身再発し、台で湯治休暇(2廻り)
- 4/13 根井沢伊之助、病気のため台で湯治休暇(2廻り)
- 4/17 八幡通新田の金矢村弥兵衛家、13日焼失、花巻郡代訴え  
・小田島源之尉、湿疹のため台で湯治休暇(2廻り)  
・鈴木久右衛門腫れ物煩い、台で湯治休暇(2廻り)
- 4/19 沢内通代官交代、小菅次郎兵衛→鴨沢金右衛門
- 4/20 南部甲斐守家老中里弥兵衛の判鑑、所々境へ配布
- 4/晦 黒沢尻御蔵奉行兼ひらた奉行交代、織笠八郎兵衛→工藤喜右衛門
- 5/10 和賀郡轟木村山田兵太夫知行肝入の源右衛門(47歳)と手廻り5人、2日欠落  
・沢田金七、花巻の養父喜平介抱のため20日間休暇
- 6/4 藩主37歳で病死、吉助様養子とする
- 6/16 花巻の松林寺子安地蔵祭礼(23日)中止、参詣はお構いなし
- 6/22 花巻川口町治右衛門、殿様病死御悔みに盛岡へ。花巻町奉行書状持参し盛岡町奉行に訪ねる
- 6/25 吉助様、盛岡発駕27日、7月12日江戸着
- 6/27 吉助様、今晚花巻泊まり
- 7/1 黒沢尻物留交代、黒沢伝左衛門→桐生源左衛門
- 7/11 沼宮内・福岡・三戸・五戸で生産した煙草の他領出役(五ヵ年)変更、一戸町弥惣次→着町茂兵衛、代物250貫文上納

【享保 10 年(1725)】藩主利幹在府、6 月病死、吉助様（信視）相続

- 7/25 鳥討、花巻へ佐藤弥平次、和賀へ大森金太夫、石鳥谷へ中野新六
- ・吉助様の名乗り、林大学頭より信視と改め
- 8/8 改名、花巻御給人大湯文左衛門→伝七
- 8/11 鬼柳通平湯境塚見分
- 8/18 黒沢尻御蔵奉行佐藤武右衛門、病気で依願辞任（8/28 後任に工藤弥右衛門を任命）
- ・黒沢尻通ほかへ検見役人派遣
- 8/20 安俵と大槌の御除高 1300 石、御蔵入りとなる
- 8/24 昆喜右衛門、舩奉行を解任され、花巻へ引越し（8/26 後任に伊藤次郎右衛門任命され、花巻に居宅支給される）
- 8/24 大森金太夫、安俵通代官を解任（8/28 後任に中村七郎右衛門任命）
- 9/12 片栗粉も 9 月 1 日両上様に献上済み
- 9/18 花巻昌観寺、弟子寛法長老を後住とする（30 石余）
- ・跡式、花巻御給人三田軍右衛門→子条助（25 駄 2 人扶持）
  - ・伊藤七右衛門、お預け御免となり、花巻へ住居
- 9/20 大迫代官交代、大矢三右衛門→中里半兵衛
- ・二子通代官交代、細越嘉右衛門→堀江九右衛門
- 9/21 御目付久慈弥太夫と御徒歩目付杉村次郎右衛門、御制札書替御用
- 9/22 北村清助、早池峰山立願のため往来 5 日間の休暇
- 9/23 北田又三郎、勝手不如意で手廻りの者を花巻の親戚中島権四郎家へ差し遣わし、5 カ年間
- 9/25 南都領内、興福寺伽藍造立の勸化
- 9/29 霊徳院遺物、花巻郡代御用人格の日戸五兵衛へ小袖と長上下 1 着ずつ
- 10/1 跡式、花巻御給人簡治郎左衛門→子作右衛門（50 石）
- ・名跡、花巻御役医太田道専→養子宗達（宗順弟で 3 人扶持）
  - ・江戸で家老鶴の料理相伴
- 10/5 当年諸士に日帳改めと来年御番割御用に御物書 2 名任命
- 10/11 舩奉行伊藤次郎右衛門、花巻から 8 月 26 日から盛岡城下に赴任し、飯料を花巻から取り寄せのところで、御蔵米 1 ヶ月 1 駄ずつ支給、宿代も申し出次第支弁
- 10/13 花巻御与力大沢新助、弟の五郎兵衛 8 月 12 日逐電を郡代に訴え
- 10/16 幼少・病人番所日頃の勤務油断と聞こえ、注意喚起
- ・参勤の松前志摩守、18 日盛岡城下止泊まり
- 10/17 黒沢尻物留番に舟越弥惣右衛門当分の間。長谷川弥一兵衛と沖孫太夫病気快癒の期間。
- 10/19 高橋四郎左衛門、湿疹治療のため台湯治、一廻り休暇
- 10/28 御用人格で花巻郡代日戸五兵衛へ鴨 1 羽下賜
- 11/ 1 舩奉行伊藤次郎右衛門、洗濯休暇 10 日間
- 11/ 2 鬼柳通堅川目村百姓一家 10 月 17 日夜欠落、通代官から郡代を経て訴え
- ・下小路屋敷弁天金仏、油断無く守るよう、屋敷守梅内久左衛門へ申し渡す
- 11/ 3 久慈恒右衛門江戸で自害、子長八不憫とされて 5 人扶持で召し出し
- ・花巻御給人工藤吉右衛門の婿養子に、松岡三太夫伯父の七右衛門の願い、許可
  - ・佐々木惣左衛門娘婿に花巻鳥見瀬川義右衛門次男の平次郎願い、認可
  - ・高札書き換えで祐筆らへ褒美
  - ・鬼怒川普請金上納催促
- 11/ 6 鬼柳通山口村百姓家 10 月晦日焼失、五人組預かり（郡代訴え）
- ・村瀬又右衛門世倅波江、湿疹治療で台湯治 10 日間
- 11/ 9 花巻の長坂十太夫病気のため、子次郎兵衛 10 日間の休暇
- 11/11 銭相場高値、五貫文以上の他領出は勘定所で切手交付
- 11/17 所々番所足軽、家老通行の際下座の指令
- 11/24 寒鳥討、中野新六と佐藤弥平次
- 11/26 舟越弥惣左衛門、黒沢尻番人病気で加番のところ、長谷川弥一兵衛病気快癒により御免
- 12/ 1 浄智院(信恩側室)本丸移徙の御祝、郡代日戸五兵衛へ肴 1 折下賜



## 【享保 10 年(1725)】藩主利幹在府、6 月病死、吉助様（信祝）相続

- 12/ 6 二子万丁目通東徳田村重三郎下人欠落  
12/ 9 中野吉兵衛知行所笹間村百姓、2 日欠落。目付へ吉兵衛家来訴え  
12/14 大迫通代官交代、中里半兵衛→毛馬内安太夫  
・八幡寺林通代官交代、浅石治左衛門→滝沢三郎右衛門  
12/17 岸半右衛門知行所二子通太田村百姓 6 日欠落  
12/19 御絵師森休印へ、海上見通し絵図御用の筆墨代として金 2 両下賜  
12/20 花巻御給人石沢孫市娘婿に、小山田善左衛門弟の治五郎、認可  
・二子万丁目通成田村百姓 11 月 27 日晚欠落  
12/25 黒沢尻通横川目村美濃部市之助領百姓 20 日欠落。 ・舩奉行伊藤次郎右衛門洗濯休暇。  
12/25 七戸御用の新渡戸佐五右衛門依願辞任、代官から家老に伺い出。  
12/26 徒目付支度金、一昨年から休止のところ再会し、花巻への旅費金 1 歩、1 泊で 2 歩、2 泊以上は 3 歩支給。  
12/28 殿様へ叙爵、修理太夫。

## 【享保 11 年(1726)】この年一年分が欠落

### 【享保 12 年(1727)】－この年藩主在藩－

- 1 / 5 花巻郡代日戸五兵衛元日の祝儀  
1 / 6 花巻御給人二人、藩主に年頭御礼  
1 /13 鳥討、花巻は中野半七、石鳥谷は中野新六、稗貫は佐藤弥平次  
・黒沢尻物留番に伊藤太郎左衛門と横浜与四郎、下斗米小四郎  
1 /23 枋内与三郎湿疹のため台湯治（1 廻）  
1 /26 改名、花巻御給人江釣子久左衛門→同又助  
1 /30 縁組、花巻御給人鈴木宇兵衛子の清九郎妻に、遊座長兵衛娘  
・花巻の役替え、郡代から御目付へ申し上げ。台所奉行永井理右衛門→三田文右衛門、同役小屋敷伝兵衛→伊藤庄左衛門、破損奉行三田文右衛門→新渡戸甚内と宮野文四郎、御山奉行石橋孫市→戸田喜左衛門と苔米地長左衛門。  
閏1/4 八幡通代官に照井多左衛門と山田善左衛門、寺林通代官に根伝兵衛と小笠原理右衛門、高木通代官に関弥九郎と小田代又右衛門、安俵通代官に伊藤源五衛門と中村七郎右衛門、二子通代官に堀江九右衛門と高橋多右衛門、万丁目通代官に鳥谷部嘉右衛門と簡作右衛門、鬼柳通代官に平賀俵兵衛と服部伝左衛門、黒沢尻通代官に富澤佐左衛門と高屋四郎左衛門  
・花巻本御蔵奉行交代、小野寺惣左衛門→四戸平兵衛。花巻新御蔵奉行交代、中島忠右衛門→上野十郎兵衛。・黒沢尻御蔵奉行交代、太田代伝助→枋内藤九郎。大迫御蔵奉行交代、中村兵九郎→円子惣五郎。  
閏 1/7 花巻御給人宮森五右衛門知行所の上江釣子村清吉と手廻し 4 人欠落。黒沢尻物留番の下斗米小四郎と横浜与四郎、病気のため当分の間代りとなる。→閏 1/9 神子田六之助と交代  
閏 1/10 黒沢尻通代官交代、富沢佐五左衛門→苔米地長左衛門  
・真寿院御番人交代、新渡戸伝次→宮野文四郎（閏 1/25 関連）  
閏 1/12 改名、花巻御給人宮守五右衛門→同五郎右衛門  
閏 1/17 穀物蔵改めに花巻通へ玉井清太夫と三ヶ尻弥兵衛、米田四郎兵衛仰せ付け  
閏 1/19 永福寺八幡脇の隠居所、普門院に改める  
・花巻御町奉行交代、刈谷六郎左衛門→藤根清右衛門  
・沢内御代官交代、藤根清右衛門→横浜武次右衛門  
閏 1/22 花巻町奉行就任の藤根清右衛門へ、引越し料 3 両支給、御役料米は先役同様。  
閏 1/25 花巻御山奉行交代、苔米地長左衛門→金田一八右衛門。御破損奉行交代、宮野文四郎→平沢八十右衛門（いずれも花巻郡代訴えによる）  
閏 1/27 月次御礼、花巻御給人金田一治郎八、江釣子又助、中島五藤太、一方井新助、石川幾之助。花巻寺林八幡別当は初目見え。

【享保 12 年(1727)】－この年藩主在藩－

- 2/23 高木通代官の小田代又右衛門、病気で解任。・黒沢尻物留番下斗米粉四郎→足沢庄左衛門  
三戸と福岡の給人与力ら、鹿角郡松山、土深、濁川、折壁の 4 ヲ所番所交代、代官の添え状を花輪郡代に提出。
- 2/25 石井嘉左衛門、七カ年勘略のため、花巻立花村知行所へ引越志。
- 3/5 花巻御町奉行藤根清右衛門手廻し、6 日花巻へ引越しのため伝馬 6 匹借遣わす。  
・夏代江戸登の名簿  
・堀江長次郎、打ち身治療のため台で湯治暇(2 廻)  
・斎藤三郎右衛門、痔治療のため台で湯治暇(二廻)
- 3/8 奥瀬与七郎、再発した痔治療のため台で湯治暇(二廻)
- 3/9 鹿角郡万松寺後住、石切所村長福寺弟子の梅葉長老(4/15 月次御礼で藩主に目見え)
- 3/10 石沢幸右衛門、痔治療のため台へ往復 14 日の休暇
- 3/11 花巻御町奉行藤根清右衛門へ御役料切米、花巻御蔵から支給。
- 3/14 荒木田市右衛門、湿疹治療のため、台で湯治暇(一廻)
- 3/15 改名、花巻御給人太田平右衛門→同五郎左衛門  
・花巻へ検地役人、横沢長助、下斗米弥内、和田七十郎、小向伴六の 4 人派遣。
- 3/17 関弥九郎、湿疹のため台で湯治暇(二廻)
- 3/18 桧山番所と濁川番所、毛馬内代官支配から花輪郡代指図に変更
- 3/19 江釣子久左衛門、知行の黒沢尻通江釣子村 109 石余の内、2 月の洪水で 2 石余永代荒となり、竿改めを申請
- 3/23 花巻滝田村穀留番人の江釣子又助と奥寺清兵衛、18 日夜相場米片馬 7 升を押収
- 4/13 浜田庄太夫知行の安俵通小山田村藤十郎家、8 日焼失
- 4/16 伴金右衛門知行の大興寺村 80 石余、去年秋洪水で 1 石余永代荒地となり、改めの申請
- 4/18 寺林通代官交代、小笠原利右衛門→外岡与一右衛門
- 4/21 薬草御用で阿部友之進来着
- 4/28 跡式、小田代又右衛門→世倅新蔵、一方井嘉助→世倅新助(郡代へ書状、2 人は 6/1 に月次御礼で藩主に目見え)
- 5/1 花巻郡代より報告、相去町 26 日火事、鬼柳検断防火手伝い。
- 5/2 下杉孫八、再発した打ち身治療のため台へ往来、16 日休暇
- 5/3 端午祝儀に、干鰯 3 枚と湯煮蕨 5 把、花巻郡代日戸五兵衛より届く
- 5/7 花巻米留相場番所、4 日晚相場米 16 ケ(5 駄 1 斗 5 升)、番人猪去内蔵之丞と神山八郎、足軽 2 人押収
- 5/18 上田弥吉、花巻へ母介抱のため 10 日の休暇(5/10 上田軍蔵も同様の休暇)
- 5/21 安俵通小山田村源次郎家、17 日焼失(花巻郡代より報告)
- 6/1 月次御礼で、継ぎ目の与力平賀丑之助。
- 6/12 万丁目代官交代、鳥谷部嘉右衛門→江柄九郎兵衛
- 6/13 寺林通北湯口村牛頭天王堂と鳥居大破、杉 3 本伐採
- 6/16 薬草御用の阿部友之進、花巻と遠野方面巡回
- 6/17 浜田彦右衛門の手廻し、五大堂村へ引越し、7 ヲ年の間
- 6/18 江釣子軍右衛門、花巻へ母介抱のため 15 日間の休暇
- 6/21 小田島庄蔵、花巻松林寺へ立願参詣のため 2 日間休暇  
・継ぎ目、花巻御給人高橋瀬兵衛→小三郎(郡代へ書状)  
・万丁目通代官交代、鳥谷部嘉右衛門→太田代兵右衛門
- 6/26 江戸へ土用御機嫌伺いご献上のかたくりの粉 27 日付で登らせ、13 日首尾よく献上済む
- 7/7 秋鳥討ち、石鳥谷は佐藤弥平次、花巻通は高杉甚右衛門、和賀は大森金右衛門(8/3 にも仰せ付け)
- 7/11 花巻御給人長坂半平子の次郎兵衛、御広間御番勤め、花巻の老母看病のため 30 日間の休暇
- 7/23 改名、花巻御給人堀内定右衛門→同与四右衛門  
・田瀬村藩境塚修築
- 7/27 跡式、花巻御給人新渡戸伝次→弟小助
- 7/28 月次御礼、病後の神山五八、入院の花巻瑞興寺(住職)
- 7/29 岩間弥五兵衛知行の和賀郡横川目村 120 石の内 2 石程春川欠、竿打ち願い
- 8/11 舩奉行の伊藤次郎右衛門、13 日から 20 日花巻で休暇

**【享保 12 年(1727)】 - この年藩主在藩 -**

- 8/14 高木通代官に玉井清太夫任命(2/23 病気解任の小田代又右衛門の後任)
- 8/22 江戸交代期間 ・江釣子久左衛門知行の江釣子村 109 石余、5 月の洪水で川欠
- 8/24 美濃部右市之助知行の和賀郡横川目村 94 石 592 の内 3 石余川欠
- 9/21 改名、花巻御給人中野七兵衛→三郎右衛門、三田定右衛門→留右衛門
- 9/22 来春の参勤諸士名簿
- 9/26 領分中の宗旨改め人数、花巻御町人 4866 人
- 10/12 鬼柳通代官服部伝左衛門、高木通代官玉井清太夫、万丁目通代官太田代兵右衛門、支配所のも  
のへ寸志銭命じる ・黒沢尻ひらた兼御蔵奉行に平館儀右衛門任命。
- 10/26 盛岡御番勤務の長坂次郎兵衛(長坂半平子でもと御広間番)、花巻へ
- 11/17 舩奉行伊藤次郎右衛門、舩金取り立てに花巻へ派遣
- 11/18 太田代伝助、黒沢尻ひらた兼御蔵奉行加えとなる
- 11/22 花巻郡代日戸五兵衛、美濃魚 2 と芹 1 鉢差上げ
- 11/24 寒鳥討、花巻通は佐藤弥平治、和賀は勝又半六、石鳥谷は大森金之丞
- 12/ 3 花巻御給人上田弥四郎娘婿に、上田宇兵衛弟の十次郎
- 12/14 改名、伊藤庄左衛門子の平内